

(2) 漁業環境の再生

高度経済成長期以降、琵琶湖総合開発やその他の経済活動によって、湖岸の風景は大きく変わりました。護岸化が進み、固有種をはじめ多くの在来魚が産卵繁殖の場とするヨシ帯などが姿を消しました。湖岸のみならず、湖底においても水質の悪化や湖中砂利の採取による土砂の減少を原因として、水草の異常繁茂や湖底の泥化などが進行しました。こうした琵琶湖の環境変化は在来種の産卵繁殖活動にダメージを与え、在来種減少の大きな一因となっています。

漁場と産卵繁殖場の整備・保全による自然生産力の向上

〈水産基盤整備事業〉 事業費：186,000 千円(うち国庫補助金：93,000 千円)

◎ヨシ帯と砂地の造成

～事業の背景～

湖岸のヨシ帯のうち、平常時に水に浸かっている「水ヨシ帯」は、ニゴロブナ等の様々な魚類の産卵繁殖、仔稚魚の成育の場として大変重要です。中でも奥行きが 30m以上ある「水ヨシ帯」は稚魚の餌になる動物プランクトンが多く発生し、オオクチバスやブルーギルが嫌う低酸素状態となるので、低酸素耐性のあるニゴロブナ稚魚等にとって更に良い成育場であることが判っています。ところが、昭和 28 年には約 260ha あった「水ヨシ帯」は、昭和 40 年代からの開発による湖岸の人工護岸化や内湖の干拓などの影響で、平成 15 年には約 68ha (造成ヨシ帯を除く) と 200ha 近く減少してしまいました。



自然湖岸(天然ヨシ群落)



人工的な湖岸形状

一方、セタシジミやヨシ帯で生まれたホンモロコ仔魚等は湖底(沿岸域)の砂地を生息・成長の場としていますが、セタシジミの主な漁場であった南湖では、平成 22 年まで行われていた建設材料としての砂利採取、河川からの砂の供給量の減少、水草の大量繁茂による湖底の泥化などにより、砂地の面積は昭和 44 年の 719ha から平成元年には 151ha にまで激減し、それに伴いセタシジミの漁獲もほとんど無くなっているのが現状です。

～事業の内容～

(1) 水ヨシ帯の調査

これまで、計画的に水ヨシ帯の造成を進め、その面積は令和3年11月までに35.6haに達しました。

一方、これまでに造成した水ヨシ帯の一部には、ヤナギや外来水生植物の侵入等により本来の役割を果たしにくくなっている箇所も見られるようになりました。

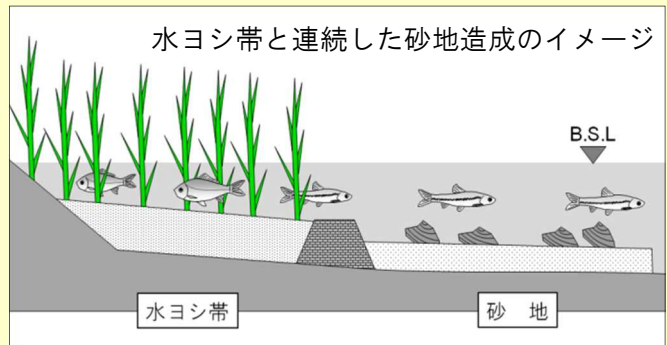
そこで、これら課題のあるヨシ帯の現況を調査し、機能を回復させる手法を検討することとしています。



(2) 砂地の造成

湖底が泥化している南湖で、令和3年7月までに73.6haの「砂地」を造成しました。造成は、泥化した湖底に繁茂している水草を除去した後、船上から重機で土砂を投入し、30cmの覆砂を行う方法で行います。

関係機関と連携して、ダムや河川での浚渫(しゅんせつ)で発生した土砂を有効活用しています。



～事業の実績と成果～

指標	水ヨシ帯造成面積					
目標値	令和5年度末 41.0ha					
	H28	H29	H30	R01	R02	R03
実績値 (ha)	30.4	32.1	33.4	33.4	34.3	35.6
進捗率 (%)	74	78	82	82	84	87

指標	砂地造成面積					
目標値	令和6年度末 92.3ha					
	H28	H29	H30	R01	R02	R03
実績値 (ha)	58.3	58.3	63.3	65.3	69.8	73.6
進捗率 (%)	63	63	69	71	76	80

(1) 水ヨシ帯の調査

今年度は造成ヨシ帯1か所について、現況調査を予定しています。

(2) 砂地の造成

令和6年度末までに92.3ha造成することを目標に、平成19年度に事業着手しました。今年度は草津市北山田町での造成を予定しています。

漁業者と連携した漁場環境の再生活動

〈琵琶湖漁業再生ステップアップ〉プロジェクト

事業費:42,178千円(別途国直接交付金 86,304千円)

※本事業は水産庁事業の水産多面的機能発揮対策を活用して実施します。

～事業の背景～

これまでの様々な取り組みにより、ホンモロコ・ニゴロブナをはじめとするいくつかの魚種では少しずつですが漁獲が回復する兆しがみられます。今後、多くの魚種について一層の漁獲量回復を目指すには、琵琶湖の北湖および南湖（赤野井湾）、内湖、河川で総合的な対策が必要です。本事業では、漁業者が中心となって水草除去、外来魚駆除、ゴミ除去、種苗放流などを行うことによって、魚介類が生息・繁殖しやすい環境を取り戻し、琵琶湖漁業の漁獲量の増大を目指します。

～事業の内容～

(1) 多面的機能発揮対策事業

- ・南湖（外来魚駆除、水草根こそぎ除去、耕うん、外来水生植物の駆除、環境保全型魚類（ワタカ・ゲンゴロウブナ）の放流 浮遊堆積ゴミの除去など）
- ・北湖・内湖（水草除去、湖底耕耘、漂着・堆積ゴミの除去、外来魚駆除、耕うん など）
- ・ヨシ帯（堆積ゴミの除去、競合植物の管理・除去 など）
- ・河川（河床耕耘、堆積ゴミ・流木等の除去、密漁監視 など）

(2) ニゴロブナ赤野井湾放流委託事業

- ・赤野井湾周辺水田へニゴロブナ仔魚 400万尾の放流

(3) 真珠母貝生産の実証事業

- ・赤野井湾での真珠母貝生産

～事業の実績～

- ・ニゴロブナ仔魚216万尾、ホンモロコ仔魚205万尾の赤野井湾周辺水田への放流（R3）
- ・南湖では約20年ぶりにまとまったホンモロコの産卵が確認された。
- ・北湖ではホンモロコやニゴロブナ等の資源が回復する兆しがみられる。

